

刊夕日一十月十

常 新 日 報

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告料 五字一円 十字二円 二十字三円 三十字四円 五十字五円 一〇〇字六円
 日曜 祭日 休刊
 発行所 常新日報社 平野町七〇番地
 電話 六二〇
 印刷所 常新日報印刷株式会社
 印刷 常新日報印刷株式会社

今の紫

古代の紫 (二)

城山六八翁

保元平治の頃から武門が漸く勢を得て、王朝の光が益々薄らぎし三四百年の間は此紫染の事がドンナことであつたか跡ぬる由もないが北條の末や足利の末など能樂なども唯されし時代もあり此紫染も盛衰はあつたであらふが、どうやら命脈を繋いで行はれたものであるであらふ。そして其京染と稱し京都の特技として世に知らるゝ様になつたのは、今から三百六七十年前後の、時は足利の末葉織田信長が擡頭した永祿年間頃よりにて、徳川氏が天下を統一するや、世は益々静謐となつて文學技藝の勃興と共に元祿前後の豪奢の時代もあり、御所染、甚三もみ鹿の子染干彌染など稱するものが世に行はれ、紫染の草足袋なども流行して友禪染も亦漸く盛になつた。京紫だの江戸紫だのと紫の色目の名稱も其前後から出来たもので、前者は赤味勝の紫なるも後者は青味勝だ又此赤味の紫から導かれた色目の名稱のものには杜若色、梅紫、紅藤、桑染色、牡丹色等のあるが此

等の中には、茶系統の色目のものと又赤系統のものであるものがあり、青味の紫から導かれた色目名稱なる鳩羽紫、えび色、半色、あやめ色、黒紫、藤納戸、浅紺、桔梗色、藤色等の中には又青の色彩の特に著しいものゝある、皆其濃淡と色刺しの程度で夫々の外觀を呈するので、其變化には限りがないが、單に紫と指稱するものには誰が見ても紫だなど感ずるものであらねばならぬ。

正徳四年江戸中村座の和會我の淨瑠璃にも、此録卷は過ぎし頃ゆかりの筋の紫の初元結の巻き染やなど、書いてあり、八代將軍吉宗の頃には吹上に染殿を起して、古代の紫染が研究され式内紫鑑などといふもの

ノート

秋草の水 揚は萩は切口をよ
 漬し芙蓉は焼き紫苑刈萱尾花等は何れも鹽の熱湯に浸けてから挿す

を出來たとやら、然して献上博多の紫縞はそれが幕府の禁色として當時此紫縞のものは一般の使用が禁止されたものであつた。紫草の産地としては奥州南部領今の盛岡附近のものが、最も優良なものとせら

れてあつたが、紫草其者は名の如く葉とか花とか、むらさきであるかと云ふに矢張緑の草本で高さ二尺前後前後一見嫁菜に似たもので、花も白色五辨の極めて

【朝】みそ汁：笹がきごぼう
 【晝】ごまみそ掛：八ッ頭芋
 【夜】わん：半べん みば
 かながしら

小なるものである。其根は朝鮮人參大の宿根で、之が紫染の材料となるため、むらさき草の名が出来たので其用途上からして紫草の名より普通に紫根なる名稱が古くから用ゐられて居る色にいで、人にかたるな紫の根すりの衣きて寝たらとも 和泉式部

常 新 日 報

山桃の實

近藤 曙花

赤らかに山桃の實は色づきししづかにくるゝ裏山の里赤らかに色のませりし山桃に頬白來たりて啼きわたりけり
 赤らかに色のませりし山桃を一つ手取りて食べば味よ

感じの良いい！
 客に親切な……

薬種買買、工業藥品
 衛生材料、各種染料
 化粧品、其他

阿部薬舗

平・田町(松月堂向)

咽喉専門

平町田町七〇番地

山内醫院

醫學士 山内亨吉
 電話六九一

入院 應需

旭硝子株式會社製品

赤菱印

板ガラス

硝子 壺
 硝子 食器

其他各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
 仙臺市榮町(電話五九七番)

支工場



玉屋洋品店

平町田町通電話五六番

出前持 各々二三名
 見習 右大至急入用

平町二丁目

魚清食堂

電六三三番

外務社員採用

初任固定給 月三十圓
 二十五才以上男女を問はず
 履歷書携帶左記へ面談。毎日午後
 平町田町一七
 レストランサロン方
 仁壽生命平駐在 吉田仁三郎
 電話三五二〇

耳鼻咽喉科専門

鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男
 平町田町(電話五八番)
 藤田女學校前

自炊のお需めに應ず
 入院の便あり

外科 一般科

醫學博士 渡部 義夫

小兒科

女 醫 渡部 きい子

平町田町大通り(電話二七七番)
 入院應需

渡部外科

石炭 炭 平野前
 コークス

阿部石炭商店

電話三七番

サンマ群愈々近づく 各濱異状の活氣

手具脛引く小型漁船

發育も比較的良好

縣醫師會代表

清水醫學士出發

金華山沖を漁場として居た秋刀魚は漸次南下して廿日頃には磐城沖合に姿を現す模様なので各濱の小型漁船は一齊に出漁準備にとりかゝつた現在石城各濱は水揚されてる秋刀魚は成育も良く相場も比較的によいので近く各濱は秋刀魚景氣に煽られるものと見られて居る

平町田町清水醫院清水廣政氏は卅日から三日間山梨縣で開かれる關東北醫師代表者會に本縣代表として出席する爲め來る廿七日出發すると

母姉妹の

參觀多く

今日の第二校

秋季運動會賑ふ

既報平第二小學校秋季運動會は秋晴れの今日午前七時半校庭に於いて國歌合唱をなし後會長津田達造氏の閉會の辭あつて直に合同体操をトツプに演技に移つたが各學年に於ける午前中のメタル受賞者は左記十名である

- (五十米) 四ノ三九山テラ子(百米) 五ノ一渡邊イノ
- 五ノ三岡田美喜子 同松本千代子 六ノ三正木千鶴子 同深谷サダ 高一ノ
- 三中村春子 同今田操 同二ノ二富田貞子 同會我久枝

好天氣が禍して

柿の大不作

相場は昨年より三割高

郡下各町村の柿は愈々出荷期に入つたが今年はその他の關係で前年に比し減作を見られて居るが相場は

昨年より幾分減少される模様である

大野村の

養鶏講習

野村農會では本十一日午前九時より同村役場に於いて養雞講習會を開催した

新營林署長

既報鳥取營林署長より平營林署長に榮轉された佐藤陸郎氏は明日平着午後一時五十分で着任されると

警陽文藝人の

一大座談會

地方斯界の名士を網羅

平町を中心にインテリ文藝人よりなる文藝團體詩南社では専ら詩歌の研究を續けてゐたが或る事情から過般詩南社を解体今後はまゆひなる團體に變更爾來漸次地方文藝團體の擴大強化を圖り準備を進めて居たが更に近く磐城高女教諭新妻熊男氏等を中心に地方斯界の名士を網羅し座談會を開き組織を充實する筈で地方唯一の機關だけに向後大いに注目されてゐる

鈴木氏退職

警城高等女學校教諭鈴木應善氏は此程一身上の都合により依願退職されたが同氏は平窪村安養寺住職の傍ら大正十三年五月より同校國語科を担当した温厚篤實の稀に見る教諭で今回の退職は非常に惜しまれて居る

鈴木氏退職

教育界の恩人

定期牡馬検査 農林省畜産馬では本年度に於ける郡下の定期牡馬検査を來る十七日に平町及び上遠野

平商校の

陸上競技

明年から實現か？ 平商業學校では從來生徒の少ないのとグラウンドの狭い爲め陸上運動會を開催しなかつたが揚土臺に移轉し五年制になると現在生徒數も四百餘名に達つたので今後毎年秋季陸上運動會を催すべく目下計劃を進めて居ると

警女校の指導

警城高等女學校では來る十七日の秋季運動會が終ると直に上級學校進學者の指導を開始すると

四倉の繭市況

四倉繭市場昨日の取引總數は千六百二十九貫、最高四十圓、最低三十圓十錢、馴三十七圓十錢である

平町人事

- 回出生 八幡小路二九當時石城郡湯本町宇山神六三永島留氏三男實
- △正月町一二櫻本光氏三女洋子
- 回婚姻 △中町三磯上健氏(三四)石城郡小田村字住谷四五磯上ハツイ(二二)
- 回死亡 △白銀町三八豊次郎氏孫富田トミ子(三ツ)

外科

門專光X

上田外科醫院

平町南町 電話一二九番

- 小兒科 內科 産科 婦人科 皮膚性病科 耳鼻咽喉科 X光線科 物理療法科 藥劑局 衛生試驗所

磐城共濟病院

電話(六四)一四二番

- 院長 石山謙郎
- 副院長 五十嵐雄二
- 醫學博士 有馬勇二郎
- 醫學士 石山謙郎
- 醫學士 石山謙郎
- 醫學士 石山謙郎
- 技術員 石山謙郎
- 藥劑師 石山謙郎
- 藥師 石山謙郎
- 獸醫 石山謙郎
- 事務長 石山謙郎

秋の流行は三井

本場 銘仙の各種

斯界の新柄

毛斯リン着尺の粹

三井呉服店

電話三三八番

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

喜多流 謠曲 仕舞 白土會

平町町六九

◇細詳は本會へ御問合せ下さる。

恐喝・無錢遊興・暴行等々 不良の限りを盡す

驚いた内郷の不良青年

犯罪續々現る

(既報)石城郡内郷村字綴國道を中心として荒した六名一團の不良青年團は昨朝根こそぎに平署へ檢舉され川島警部補が嚴重可憐を行つてゐるが首領株の同村字金坂西村猛(三)は團員五名と共に本年三月頃同村字瀧飲食店桂次郎が振出した額面百二十圓の不渡約束手形を知人の山崎金作に八十

圓で押賣りした外殆んど全村に亘つて無錢飲食を働き愈々金に窮すると良家婦女を再三脅迫して居たもので其の被害金額は相當額に達して居るが因に首領の西村等は昭和三年の同村不良狩に真先に檢舉された強か者で當時は血櫻團と稱する不良組を結束し自ら團長となつてゐたものである

小こさの消防手の ポンプ操練開始

運動會には實演を行ふ

平第二小學校少年消防隊では愈々火災季も近づいたので之に備へる爲め昨日より平消防組佐川小頭及び根本伍長の兩氏を招きポンプ操法の練習を開始したが来る十三日の秋季運動會には消防教練に合せ實演を行ふと

高坂坑に 突如出水

坑夫一名溺死

十日午前九時頃石城郡内郷村高坂鑛城炭礦第三斜坑内大畑オロシ附近に突如出水あり作業中の採炭夫富山縣生れ奥野與左衛門(四)は逃

拳闘の實演

渡邊選手を招き

平町第一、第二、第三各小學校及び磐女校では明日好間村出身にして全國的拳闘家として有名な渡邊賢一氏を聘し拳闘の準備運動として行はれる「スキップング」の講演會並に實演を行ふがスキップングは拳闘の準備運動として有効なるの

八分團の軟式 對抗野球

十三日キヤプテン會議

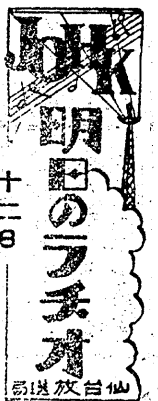
既報来る十五日平商及び第一第三兩小學校グラウンドで開催される平青年團主催の各分團對抗軟式野球大會の申込みは昨日迄であつたが出場チームは昨年優勝した南町を始め新川町、三丁目

掛小屋の中で フィルム火事

二百餘の觀衆大混亂

大野村の椿事

石城郡大野村砂子田假興業場で九日午前九時頃興業中であつた茨城縣原町玉野キネマ車玉野正夫方技術者井上義一(三)は映寫機を停



明日のラジオ
今夜も明日も北西の風天氣良くなる

今晚の部

後六〇〇 子供の時間
少年運動講座「野球の誕生」橋戸頭鐵
後六二五 趣味講座「芭蕉忌を前に象潟の舊蹟を語る」飯野哲二
後七三〇 講演「水河遺跡の話」東北帝大教授理學博士高橋純一
御八〇〇 義太夫「御所

櫻堀川夜討」辯慶上使の段 淨るり豊竹新之助
三味線吉田政枝
後八三〇 新内「傾情音羽瀧淡島の段」淨るり富士松長門太夫 三味線龜三郎 上調子昇朝
後九〇〇 獨唱とテエロ 獨奏 獨唱長門美保 テエロ高勇吉 ビアノ伴奏 高木東一

本社對 役場の野球

十七日舉行

本社チーム對平町役場の野球試合は来る十七日午前九時より平商グラウンドで行ふが兩チームのメンバーは左の如くである

常警 貝 澤寄村本本林田 磯 田片勝松坂坂大相
役場 投捕一三遊左中右 羽川藤田一子田場木 高荒佐山荒金吉稻青

不良運轉手 免許證取消

江名の

石城郡江名町字北町佐藤文治郎方自動車運轉手平町研町生れ大谷清(三)は十日縣保安課から運轉手免許證取消の行正處分に付された同人は昭和八月廿五日乙種テ型フォードの免許證を得たが現在ではこの車體の使用者がないたため、ペンとなり窮餘の一

後九三〇 時報
氣象通報 番組預告

「秘霧國事情秘露」副領事 淀川正樹
後六〇〇 子供の時間
少年運動講座(第二日)日本野球史横井春野
後六二五 英語講座
(二)の四)藤田孝興
後七三〇 映畫の夕
映畫劇軍國挿話「カタカナ中尉」出演寶塚キネマ現代劇部 水原洋一 松浦樂枝 椿三四郎外
後八五〇 映畫劇「大學の若旦那」三井英男 藤井貢 坪内美子其他
後八四五 映畫劇「鯉名の銀平」林長二郎 高田浩吉 飯塚敏子其他

明日の部
前六三〇 基礎獨語講座
(十三)橋本忠夫
前九一〇 料理談立「蒲鉾の口取り」
前一二三〇 家庭講座
「十月名残茶の湯懐石料理法」栗山善四郎
後〇〇五 チエロ 獨奏と新樂曲 ビアノ伴奏吉田貴壽 武澤武
後一五〇 野球試合實況
東京大學野球聯盟リーグ戦(神宮球場より中継)
後二〇〇 家庭大學講座

策から本年四月廿二日右免許證をシボレー運轉證に改竄したこと發覺したものである

平署組頭會議 平署管内各町村消防組頭會議は来る十三日午前九時より同署會議室に於いて行はれ秋季檢閲其の他の件を協議すると

平職禁紹介所報告
回人を求める方
△豆腐賣子 三十以下 尋卒賣上の一割五分(平町某)
△農夫 四十以下 月十圓 外面談(江名町某)
△店員 二十二迄 月正六圓 外面談(双葉郡某)
△大工 四十迄 尋卒 日給一圓(湯本町某)
回職を求める
△土工夫 二十九才 高卒 給料面談(好間村某)
△職工 二十七才 尋五修

美味!
芳醇!

宗正らひた

山崎合名會社
電話一〇番

銘劍秘刃録

【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第六十二回 血に飢ゆる村正

水がとりもつ縁

山田三四郎は何者に殺されたか、何れ賊の所爲であらうといふので捜索は致しました。次郎吉の悪運の盛りと見えて、幸ひ天網を逃れ、大金が手に入った。故店の掛りなどを直して居り、此の頃は夜泊りもなくなりました。毎朝のやうに佛間に向つては線香を上げ頻りに詫びて居るに、おきくも大きに安心して居ります。懐妊して八月で居りましたが、月足らずで流産を致しました。醫者よ薬と手當をしたが役に立たず、おきくも其儘亡き人の數に入りました。臨終の際にも次郎吉の向來を戒め、どうぞ改心して呉れといふ事を申して死んだのは氣の毒なものでございます。早速佐野の犬伏實の親鐵藏方へ飛脚を立てました所が、鐵藏は目明しをして居る事故御用筋で不在でございます。したが、相當の者が参りましたに就て立會のうへ野邊の送り濟ませ終ひ、佐野から来た使ひには遺品の物を持たして返し、何れ跡から戻りますと口ではいへど次郎吉は、まだ百

兩の金を暖めて居ります。ゆる中々佐野へ歸る氣はございません。家主へ話しをして道具付で長壽庵の店を賣つて了ひ、是から氣樂な獨り身だと思つた金を懐に入れて尋ねて参りました。が芝口一丁目に入渡世をして居ります三河屋藤七

廻りにもなりたいた話をしたので、藤七も承吹して家へ置きました所が、次郎吉は男つ振りの好いのに金があるから博ちは奇麗に打つて、氣前は善しするのでございませう。三河屋の家でも若いものが見え、といふやうになりました。すると此の三河屋藤七の隣りに船板塀に見越しの松といふ拵へで下女一人を使つて居る圓ひ者がございませう。元は柳橋の藝者から叩き上げて江戸節をよく語るといふ所から江戸節のおこんといつて評判の女でございませう。夫を仙臺の留守居役澁江右膳といふ人が月々莫



の所、是は博奕場で懇意になつた人で、大した親分といふでもございませう。可なり子分もあつた。次郎吉は手土産を持つて参りまして、此ういふ譯で世帯を了つたからどうか當分家へ置いて貰ひたい、始終は

大の手當をやつて外妾にして居ります。モウ年は三十四でございませう。一寸見ると十代にしか見えませう。始終洗ひ髪で傳法肌の圍ひ者、先方でも三河屋に居る次郎吉に目を附るし次郎吉も訝な女だ、つて居た、

或日の事次郎吉が表へ出る途端におこんの家の下女が水をまいて居りましたが、どういふ途端か次郎吉の足へザブリと掛けました。女「マア内儀さん、とんだ事をしましたよ、隣りの若い衆の足へ水を掛ました」といひながら逃げ込んで参りました。紺「お氣を附けよ、隣りは堅氣の商人ぢやアない折助を扱つて居る家ぢやアないか、どうせ折助でもしやうといふ者に碌な者があるのかね、只ぢやア濟みやアしない、本當にお前はそんな事ばかりして困るよ」と下女に叱言をいひながら出て来たおこんが見ると平常から少し思召しのある好い男が足を濡らして居る様子

次「アハ、呉さつせエ面白い、内儀さん、斯ういふ女を使つてると腹の立つ事もありやアと思はず笑ふ事もあつてトンダ氣晴しして宜い女中だ」と紺「眞正にさういつて下さると私も助かります。マアお見なすつてお茶でも上ませうから」と次「然うでございませう、朝から口を濡らすので延儀が宜い、夫ぢやアお茶を一杯頂させよう」と芥子王の手拭で足を拭き手拭ひを臺所へ置いて火鉢の傍へ座りました。おこんは其の中茶の支度を致しましたが此の跡は一息ついて申上ります。

木村外科専門院

市原醫院

平町田町 電話二一〇番

自炊入院の便あり 平町五丁目橋目 電話三〇九

外科 X 光線科

安齊外科醫院

平町田町 電話四七五番

味覺の秋を樂しみ得る 香氣の高い松茸 料理を始めました 出前 迅速 錦水 電四五四

靈効散 (無効返)

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥 松前 家傳 本ント北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評がありました。今度のものは眞正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませんから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、輕病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出來ました。

定價 試用分(八日分)五十錢 重症用(四十五日)貳圓 備症用(廿日分)壹圓

阿康藥舖

販賣部 地方代理店 平町古鍛冶町縣社ノ下 電話四四番

三井タクシー

平町二丁目 電話六八五番